

青梅市の将来人口推計（案）

1 推計の前提

国の将来人口推計ワークシートを活用して、青梅市の将来人口を推計した。国等による推計4パターン（①～④）および、東京都の推計（⑤）を掲載した。

これらの推計方法を分析し、本市の実状等を勘案した独自の推計（⑥）を掲載した。

基本的な人口推計の方法は、平成22年における国勢調査の人口を基本とし、将来の生残率、純移動率、子ども女性比、0-4歳性比の仮定値を用いて推計している。

ワークシートでは、これらの仮定値を変化させることで将来人口のシミュレーションが可能となっている

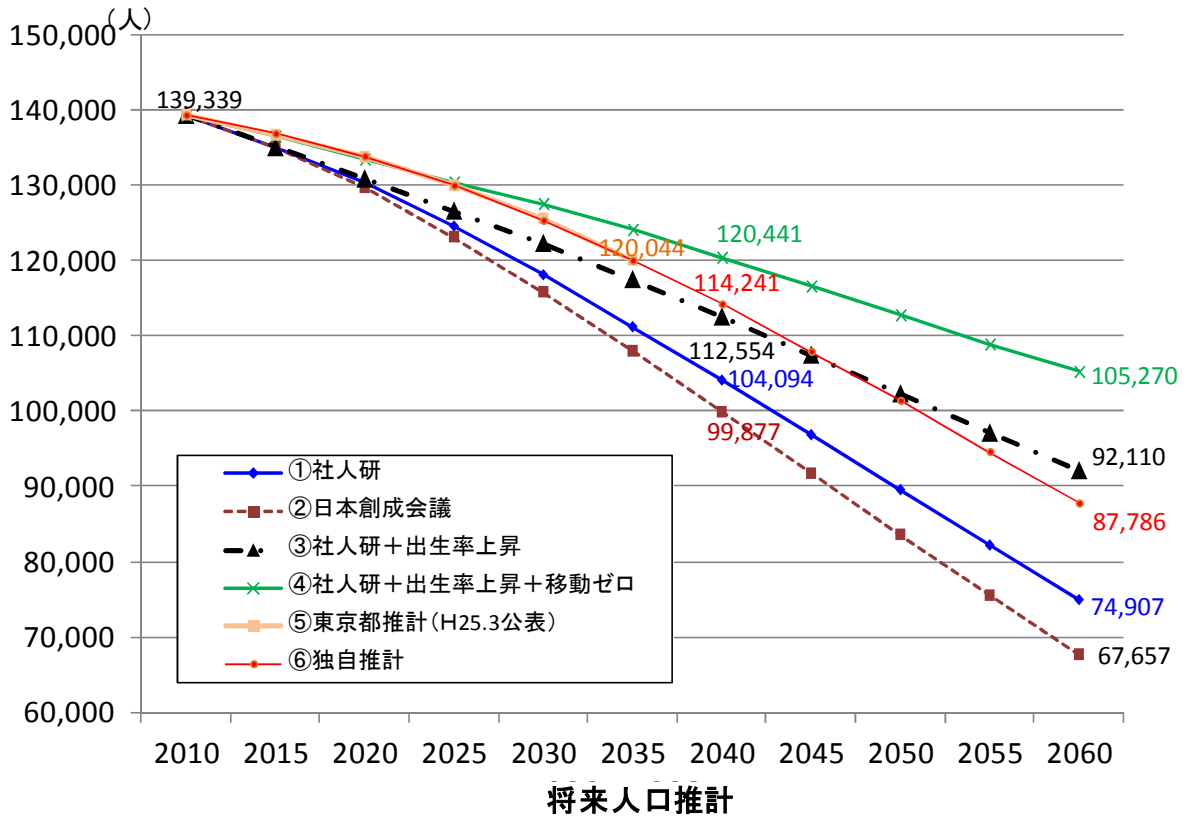
	推計者	推計方法の概要
①	国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」）	出生率：2015年1.32から2025年1.27まで減少し、その後一定 移動率：2005年-2010年の移動率が、2015-2020年までに0.5倍に縮小し、その後一定
②	日本創成会議	出生率：①と同じ。 移動率：移動総数が社人研の2010-2015の推計値から縮小せずに、2035-2040まで概ね同水準で推移
③	社人研+出生率上昇	出生率：2015年1.3から2030年までに出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇 移動率：①と同じ
④	社人研+出生率上昇+移動ゼロ	出生率：③と同じ 移動率：移動ゼロ（転入と転出が均衡）
⑤	東京都	平成25（2013）年3月公表の数値（2035年まで）
⑥	独自推計	出生率：現実的な上昇ケースとして以下のように設定 2015年1.32、2020年1.5、2025年1.6 2030年1.7、2035年1.8、2040年以降1.9 移動率：過去10年間（2000-2010）の実績平均移動率を用いて一定（2005-2010年の移動率より転出傾向が少ない）

※1 ①～④の公表は2040年までのため、同様の推計方法により2060年まで算出

※2 ⑤は、詳細な推計方法が公表されていないため、公表値のみ

2 推計結果

社人研による人口推計では、2040年で104,094人、2060年で74,907人となり、将来人口は大きく減少すると予測される。独自推計では、2040年で114,241人、2060年で87,786人となる。



「生産年齢人口／高齢者人口」は、高齢者1人を支える生産年齢人口の割合であり、2040年頃にこの値が1.06～1.51になることが予測されている。

独自推計では、2050年に1.0を下回った後に増加する傾向がみられる。

